

まとめ

北海道大学病院（以下北大病院）では、女性医師等支援事業において、女性医師等就労相談窓口の設置、病後時保育を含む保育支援、復職支援を中心に活動を進めている。

こうした取組と照らし合わせながら、本調査における全国医育大学や道内の医師、医学生の調査結果の概要をまとめた。

【全国医育大学向け調査】

- ・今回回答のあった34の医育大学は、いずれも女性医師等支援を実施しており、本調査結果は、女性医師の就労支援に対する意識が高い大学の回答であることを前提とする必要がある。
- ・全国医育大学における女性医師等の就労・復職支援の取組内容は、育児施設・サービスの充実等出産・子育てに関する直接支援や、相談窓口の設置が多くなっており、現在、北大病院で進めている活動とほぼ合致している。出産・子育て支援の具体的内容としては、病院内託児所の設置や病児・病後児保育の実施割合が高く、北大病院でも現在その取組を強化しているところである。
- ・また、全国医育大学の多くは、出産・子育て支援、相談窓口の設置に加え、「勤務時間や日数の短縮、残業や当直の免除」を行っている。
- ・こうした取組の結果、多くの大学では、女性医師の復職に対する職員の理解の高まりや復職希望の女性医師の増加といった成果が上げている。
- ・このように北大病院においても、出産・子育て支援、相談窓口の機能強化に加え、女性医師の復職に向けた対策についても今後強化する必要があり、そのためには男性医師を含め女性医師の就労支援に向けた大学全体の理解普及が不可欠であると考えられる。

【道内の医師・医学生向け調査】

- ・アンケートによると、出産・育児経験のある女性は、保育所などの育児支援を利用しながら仕事との両立を図っているが、医師という時間的融通の聞き辛い職業柄、周囲のサポートによって辛うじて成り立っている状況にある（本調査は復職していない女性医師を対象としていないため、実際には両立が不可能だった女性医師も多数いるものと思われる）。
- ・また、医師不足や核家族化等が進む中、こうした周囲のサポートも確定的なものでなく、出産経験のない女性医師や医学生は、出産・育児後の復職に対して多くの不安を抱えていることが明らかになった。こうした現状を踏まえ、男性医師も含め多くの関係者が、女性医師に対する復職支援の必要性を感じている。具体的に出産・育児経験のある女性医師からは復職に際して苦労した点として、「育児施設/サービスが充実していなかった」、「勤務時間/日数/シフトを柔軟に対応して貰えなかった」、「復職経験のある女性医師の話聞く機会がなかった」などが挙げられた。
- ・一方、男女とも、復職支援制度に対し、過剰な優遇により他の医師の負担が大きくなることや不公平感が生まれることで職場環境が悪化することを危惧している。
- ・これらの調査結果を踏まえると、「女性医師の就労支援」を前提とした支援プログラムの充実に加え、それをサポートする周囲への配慮を加えた支援体制が望まれる。